

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.95 2023.12.20
発行 寝屋川市自然を学ぶ会
会長 山田 晃
事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
千田正喜 宅
☎ 090-4036-0719



みんなの掲示板 百済寺の紅葉 2023.11.23

あぁ どこから まど・みちお
庭をとって ゆうびんやさんがかえっていく ああどこから こないかなあ
きょうも みおくっているのは なの花びらの手がみと
屋根のスズメと かきねのデンデムシだ まめのような こづつみが
「ごめんよ きみたちあての 手がみは来てないんだ」 — ゆうひいんって
ゆうびんやさんは そそくさと いっちゃった スズメたちに デンデムシたちに
てんぷらぴりぴり 大日本図書刊 まど・みちお

目次

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (2) 行事報告 1. 自然観察 ④秋の淀川 点野地域 (3) 行事報告 2. 自然観察 ⑤昆虫 ⑥どんぐり 深北緑地 (4) 行事報告 3. みんなの掲示板④シダの観察会 (5) 行事報告 4. みんなの掲示板⑤水鳥公園・百済寺、私の散歩道「自然観察を子どもと共に」 (6) 寝屋川市野外活動センターとの協働活動 (7) 参加・協力活動① フェットエスポアール、大阪自然史フェスティバル、市民ふれあいフェスタ、茨田イチョウまつり (8) 参加・協力活動② 六中校区 どんぐり教室
図書館行事 「ふしぎな色水」
成美小校区 親子教室 | <ul style="list-style-type: none"> (9) 出前授業
自然資料室より 自然塾⑥⑦⑧ (10) 自然資料室より 子ども自然シリーズ講座⑨⑩
幼児と保護者の自然教室① (11) 自然資料室より 大人自然工作シリーズ講座②③④ (12) 自然はかわいい シダ植物3「カニクサ」 (13) 自然界のふしぎ 三葉虫シリーズ3「三葉虫の生活」 (14) 私の自然観察 身近な昆虫43「キンウワバの仲間」 (15) 本の紹介 「黒部の谷の小さな山小屋」新会員紹介 (16) 行事予定 定例自然観察会⑦野鳥 ⑧私市植物園、みんなの掲示板 野鳥、展示会案内、野活環境整備④ |
|--|--|

第4回定例自然観察会 野草（淀川 点野地域）

秋の淀川自然観察会を点野地域で行いました

本多政雄

秋季の淀川自然観察会を9月23日（秋分の日）に、改修された点野わんど地域の紹介を兼ねておこないました。まだ暑い日が続いていましたが36名の参加者がありました。

集合地である太間の駐車場付近には、多量の果実をつけたトウネズミモチ、ワタ、キバナコスモス、コスモス、ミチヤナギ、ヤハズソウ、ワルナスビなどが見られます。トウネズミモチ、ワタ、キバナコスモス、コスモスは栽培種ですが、トウネズミモチの果実は越冬する野鳥の食糧、ワタは忘れられた植物の復活を願っての啓蒙（けいもう）でしょうか？、ハイビスカスの形をした黄色の立派な花と白い綿毛に包まれた種子を見ることができます。

集合地を出発してすぐにビオトープ跡があります。現在は池に水はありませんが、雨水がたまるようで水を好む植物が多く、トウネズミモチ、シュロガヤツリ、スベリヒユ、ヒメマツバボタン、クコ、シマツユクサ、アメリカスズメノヒエ、アキメヒシバ、アキノエノコログサなどが見られました。このトウネズミモチは野鳥が落とす種子から発生したもののようです。シュロガヤツリ、ヒメマツバボタンは栽培種です。シュロガヤツリは高さ1.5mにもなる大形のカヤツリグサでビオトープを作ったときに植えたもののようです。

クコは花の時期で、葉腋に淡紫色の花が1～3個ずつつく可愛い花です。果実は11～12月に赤く熟し、食べられます。

シマツユクサをこの地域で見たのは初めてでした。通常のツユクサの花弁は3個で、2個は鮮やかな青色で1個は白色で小さいのですが、シマツユクサの花弁は3個とも淡青色です。

ビオトープ跡付近の観察が終わったら淀川河岸へ行ってみましょう。この付近の河岸にはオニグルミの木が多く、秋には果実が熟し食べられます。ここから点野わんどまで歩きます。

河岸にはオニグルミのほかアキノレ、センダン、エノキ、センニンソウ、アメリカノウゼンカズラ、オオタチヤナギ、マルバヤナギ、クワ、シナサワグルミ…など多数の植物が見られました。詳細はガイドブックをご覧ください。



ワタ



クコ



オニグルミ 果実



シマツユクサ



センニンソウ



ヒレタゴボウ



ツルマメ



ヒシ 花

※本観察会は身近な自然なガイドブック第8編「秋の淀川」発刊記念行事として実施しました。

第5回自然観察会 昆虫 (深北緑地)

10月8日(日)

参加者 35名

虫をさがしてバッタを飛ばそう

高本 憲二

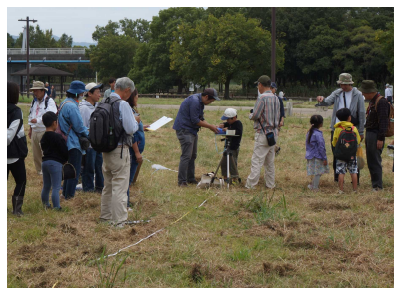
10月8日(日)毎年恒例となった「昆虫かんさつ会」が深北緑地公園で開かれ、今年も親子連れら35人が参加しました。好天に恵まれ参加者たちは背の高い草むらや芝生で大人も子どもも虫取り網を持って夢中になって虫を追いかけていました。捕まえた虫は虫かごに入れてその中からよく飛びそうなバッタを選んで、「バッタの運動会」に選手として出場させました。今年も選手はトノサマバッタが多くスタッフは汗だくでメジャーを持って走っていました。今回最も遠くまで飛んだバッタの飛距離は28mでした。



バッタがいた!!

バッタの運動会の後は、トノサマバッタの気門の数はいくつ? 耳はどこ? 目はいくつ? など、トノサマバッタクイズでバッタの生態について少しだけお勉強しました。

最後に「バッタの運動会」出場選手の飛んだ記録の書かれた表彰状をもらって散会となりました。



遠くまで飛んで!

第6回自然観察会 どんぐり (深北緑地)

11月5日(日)

参加者 33名

親子でどんぐりウォッチング

木村 雅行

深北緑地でのどんぐりウォッチングは今年で9年目。月日の経つのは早いものです。少し風のある晴天の下の観察会でした。昨年同様に管理事務所前から出発してテニスコート・ドッグランの横を通る外周りの遊歩道を歩くコースです。今年は異常に高温が長く続き、11月なのにまだ9月の気温とのこと。緑地全体がまだ緑色が多く、樹々の葉が赤や黄色に色づくのはもう少し先になりそうです。でも、どんぐりや木の実はいっぱい出来ており、ゆっくりと観察しながらたくさん集めることができました。



どんぐり 落ちてる!

緑地にはシラカシとアラカシが特に多く、このよく似たどんぐりや葉の違いを見比べました。生でも食べられるシイの実、人気者のマテバシイの大きなどんぐり、円くて大きいクヌギのどんぐりなどたくさん拾えました。今年も「どんぐりの大きさをくらべ」の一番を競いました。赤色のクロガネモチ・ハナミズキ・サンシュユの実、白色に弾けたナンキンハゼの実、まだ緑色のままのフウの実なども見られました。

コースの最終地の深野池の近くのどんぐり工作の会場では子どもさんご家族の皆さんも作品づくりに熱心に取り組んでいただけただようで、うれしいです。今年も参加者が以前と比べると少なく、少し寂しく感じましたが、観察や工作など余裕をもって楽しんでいただけただけのように思います。最後に毎年同じことの繰り返しですが、たくさん子どもたちの笑顔をいただき、ありがとうございました。



どんぐり工作

第4回みんなの掲示板 シダ植物 (私市植物園)

10月9日(月・祝) 参加者19名

モトマチハナワラビが私市植物園に

天野 史郎

今回のシダ観察会は、初めて私市植物園でおこないました。雨もあけ方には止み、なんとか昼までもちそうでした。まず水生シダの観察から始めました。サンショウモ、デンジソウは孢子のう果をつけており、他にニシノオオアカウキクサが見られました。いずれも絶滅危惧種です。カラタネオガタ



サンショウモ



デンジソウ孢子のう果の観察



観察の様子

マの林に移動し、モトマチハナワラビを観察しました。今年5月の草刈りですっかり刈り取られてしまいましたが、保存を要請したところロープで囲われ復活していました。未発表のとても貴重なシダで、大事にしてほしいものです。日本産樹木見本園のあたりは草刈りが激しく、シダはあっても無残な姿。温室の予算はないけれど草刈りの金はふんだんに出るようです。池をすぎて左手に道をとると、ベニシダにまぎってギフベニシダがあります。ギフベニシダはかつて園内の各所に見られましたが、最近の頻繁な草刈りにより著しく減少しています。二の谷でサトメシダやホソバイヌワラビを観察しているとき、木村さんが目ざとくヌマダイコンを見つけられました。



モトマチハナワラビ



ギフベニシダ

後日、ギフベニシダの保全を要請したところ植物園も取り組む姿勢を見せ、技術員とともに園内のギフベニシダの現状を確認しました。その折、ヌマダイコンも保全対象として見てもらうつもりでしたが、すっかり刈り取られていました。残念！

シダ観察のガイドの葉を届けます!!

～河内森周辺のシダ～

毎年シダ観察会を行っている河内森駅から小久保川上流周辺のシダガイドです。積水ハウスマッチングプログラムの助成を受けて作成しました。

代表的なシダ 30 種を掲載しました。少しでもシダに親しむ助けになれば幸いです。

河内森周辺のシダ

河内森駅から小久保川上流周辺のシダガイドです。紹介できるのは現在あるシダの4割以下です。不足は図鑑などで補ってご利用ください。

寝屋川市自然を学ぶ会
作成: 天野史郎・久美子
積水ハウスマッチングプログラムの助成を受けて印刷

湖北水鳥公園と湖東百済寺

～運も味方して～

中村 清秀



後方のテレビにオオワシの姿が！

11月23日、25名の参加を得て、一路湖北へ。シベリアからやってくるコハクチョウ、下見の時は50羽ほどが湖畔で羽を休めていたが、この日は200羽ほどが2,3km先の沖合に。水鳥センターのフィールドスコープでも捉えられなかった。残念!!、と思いきや係の方が“今日来られた人は運がいい、館内のライブカメラに『オオワシ』を捉えていますよ”とのこと。通称「山本山のおばあちゃん」滅多に見られないオオワシが目の前の大型テレビに。湖畔にはマガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、ホシハジロなどのカモの群れやダイサギ、コサギ、

アオサギ、遠くにはウミアイサも、全部で30種を超える野鳥が見られました。

昼食後、湖東三山の一つ、百済寺へ。創建は飛鳥時代、紅葉の寺といわれるだけあって、真っ赤に染まったイロハモミジなど、全山が赤や黄に染まり、澄みきった青空に映えていました。参加者から思わず“ワー、きれい!!”と感嘆の声が。それはそれは見事な景色でした。回廊式の庭園から本堂へ。参道ではミツマタを見つけました。

コハクチョウは見られなかったけど、貴重なオオワシが見られたこと。全山紅葉の見事な景色を見せてもらえたことに感謝です。

小春日和のいい天気にも恵まれ、運も味方につけた観察会でした。



もみじ きれい！

私の散歩道 「自然観察を子どもとともに」

お外大好き

東村 能愛 (小3)

私はお外で遊ぶのが大好きです。いつも、近くの公園でダンゴムシやテントウムシを見つけて遊びます。

自然を学ぶ会の行事で淀川の河川敷に行った時には、シャクトリムシやモンシロチョウの幼虫をうでの上にはわせて遊びました。会員の高本さんが一緒に行っていたので、バッタのことをいろいろ教えてもらいました。マダラバッタやクビキリギリスなどいろいろな種類がいること、オスとメスの見分け方、どんなバッタがよく飛ぶのかなど、とても勉強になりました。おかげで、今年も「バッタの運動会」で優勝することができました。今年の夏は、初めてセミの羽化を見ました。まだまだ知らないことがたくさんあります。これからも自然の中で色々な事を見つきたいです。



バッタつかまえた！

マムシとバッタリ！！

滝本多美子

京都のサツマイモ畑に、孫たちと芋掘りに行った時のことです。防草シートをめくったら、真っ黒で頭が三角の蛇がとぐろを巻いてじっとしていました。冬眠にはいったところだったのでしょか。

孫たちの叫び声に、主人(おじいちゃん)がクワをふり上げてグサツ！「マムシにかまれたら命にかかわる一大事」と納得させて、お墓を作ろうということになったのですが、小学2年生と1年生の孫たちは、可哀想とか残酷とか、なにやらブツブツ・ブツブツ。生き物の命は大切だという事と「ごめんなさい」の一言を添えて、手を合わせていました。

めったに遭遇しないマムシを偶然にも見つけてしまった事が自然観察と言えるのか分かりませんが、子どもたちにとって貴重な体験が出来た一日でした。



ごめんなさい

寝屋川市野外活動センターとの協働活動

第2回自然観察と環境整備

10月3日(火)

参加者 18名



倒木の撤去作業

気持ちの良い秋晴れの下、たくさんの方が集まり整備をしました。池への道に木が倒れていて通行できなかったの、チェーンソーを使って太い木を切り、取り除く作業をしました。また、蛍広場への階段のそうじ、蛍広場から池への道の草刈り、傷んでいる樹木の名札の修理をしました。

昼食は、マツタケ風味のきのこご飯と豚汁を美味しくいただきました。

午後は、高山竹林園に行きました。竹林を散策しながら、ヒヨドリソウやフジバカマの観察をしたり、ドングリを沢山拾いました。



フジバカマ

第3回自然観察と環境整備

12月5日(火)

参加者 17名

午後から雨予報で、曇り空の肌寒い気候でしたが、活動すると上着を脱ぎたくまりました。今回も、蛍広場への道の掃除、木の剪定、通路の掃除、昼食の準備等分かれて仕事をしました。蛍広場への階段の不具合も見つかり、修復しました。木の剪定をしているとクズのつるが結構あり、早速リース作りを、20本近くできました。長いつるやすごく太いつるもあり、リース作りの教材に持ち帰りました。通路の落ち葉掃きをしていると、排水溝が土で埋まっているのが見つかり、スコップで取り除きました。



木の剪定



溝そうじ



ミラノ風杉木スペシャル

楽しみの昼食は、「ミラノ風杉木スペシャル」で、レンゲ米と共に美味しくいただきました。雨模様なので、午前中の活動で終わりました。

◇野活での協力活動① 東北コミセン

9月24日(日) 小学生30名

協力者2名

東北コミセンの秋の行事として、野外活動センターでのデーキャンプの行事がありました。昼食後子ども達のグループは森の探検のプログラムに参加しました。はじめに鏡を使って二人一組で歩く体験をしました。ひやひやそろそろ歩きました。次に森へ入って、木の葉の恐竜探しやトンボやカマキリの昆虫、ヌスビトハギなどの草花の説明にもしっかり耳を傾けました。おわりにどんぐりペンダントを作り、かわいいチャームをもらって楽しそうでした。



楽しい話に耳を傾ける

◇野活での協力活動② 高木さんグループ 10月7日(土) 親子83名

親子グループの一泊キャンプがありました。幼児を含む43名と保護者の行事です。キャンプ一日目の午後、センター内の野外体験を楽しみました。

はじめにナイロン袋を手に宝物さがしです。親子でどんぐりを拾ったり、虫を探したり、草花で袋の中は膨らんでいきました。一生懸命に探して、セミの抜け殻を見つけスタッフに話を聞く子もいました。「こんなのも拾ったよ」とかわいい赤い木の実を見せてくれる子もいました。笹舟づくりをしたあと、狸のはく製を見てびっくりしました。おわりにペンダントややじろベえを作って、みんなで楽しみました。



狸のはく製にびっくり

◇野活での協力活動③

10月13日(金) 協力者4名

野活を利用する小中学生(13名)の団体に、写真立て作りで協力しました。2種類の見本があり、どちらにするか考えた後、土台になる木や材料を取り、製作開始。木の枝や、ドングリなどの木の実をどう飾り付けるか思案しながら付けていました。出来上がった作品を見て、どの子も満足気でした。

最後に、代表の子どもから感謝の言葉をもらい、うれしかったです。



どこに付けようかな？

協力・参加活動

この秋も、小学校や地域団体などと協力・参加活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

◇フェットエスポアール

10月21日(土)・22日(日) 参加者430名 協力者延べ24名

エスポアールを利用して活動している団体を中心に、市民の芸術文化活動の場として世代間の交流を図っています。本会は活動内容の展示と自然物を使っての手作り工作(どんぐり工作・どんぐりペンダント・白いこまの色ぬり・レインボーごま)で参加しました。

どんぐり工作では、木の実や葉、小枝などを使って自分なりの作品を作っていました。また、小さな子が自分で色塗りをしたこま回しに挑戦し、うまく回せるようになり周りからの歓声が聞こえていました。とだえることもなくたくさん子どもたちが工作を楽しんでいました。



白いコマの色ぬり

◇大阪自然史フェスティバル

11月18日(土)・19日(日) 来場者約19000名 協力者延べ9名

4年ぶりに従前どおりの取り組みが進められて、多くの来場者でにぎわいました。

大阪近郊の自然にかかわる団体を中心に関係機関や協賛企業の展示などのほか講演会や体験講座など多彩な活動が展開されました。

本会からは、活動紹介の展示とどんぐり工作等で参加しました。両日とも数多くの親子連れでにぎわって、ペンダントづくりややじろべえを楽しみました。他団体の出展も見学して、活動内容や会の進め方などを学び、交流を広げました。



やじろべえ作り

◇市民ふれあいフェスタ

11月19日(日) 協力者5名

第20回の記念すべきフェスタが「開け！未来の扉！！」のスローガンのもと市民会館で実施されました。50をこえる市民活動センター登録団体が参加しました。

発表方法は従来の舞台・展示から映像を使ってのセミナーや舞台を使ったダンスなど多様で盛り沢山の発表でした。

本会は従来通りで“年間活動の紹介と手作り工作”の参加です。

「自然観察を子どもとともに」に視点をあて年間活動を写真をベースで紹介し、また、子ども向けの工作(どんぐりペンダント・白いこまの色ぬり・ぶんぶんごま)の3種類です。

一日中子どもたちで賑わいがとだえることなく、とても楽しい一日



学ぶ会のコーナー

◇茨田イチョウまつり

11月19日(日) 参加者約120名 協力者3名

今年度も淀川点野の茨田樋遺跡水辺公園でイチョウまつりが開催されました。

好天に恵まれて、関係団体からのパネル展示等での活動紹介と幹線水路の船乗り体験や防災についての紙芝居など多彩な取り組みがありました。本会から、パネル展示とどんぐり工作や淀川の秋の植物調べなどで参加しました。



まつりの様子

西寝屋川高校の点野玉づくりなど高校生も活躍していました。あたたかい日差しの中楽しい交流ができました。

◇六中校区 第五小学校・国松緑丘小学校のどんぐり教室

11月25日(土) 子ども47名 協力者7名

～見て！見て！私の作った工作！！そして子どもと大人の会話がはずむ～
六中校区地域教育協議会主催で、今年は、第五小体育館で行われました。

47名の小学生が4グループに分かれて工作の始まりです。はじめに、①どんぐりペンダント②どんぐり工作（木の枝、どんぐりなどの木の実や葉などの自然物を使っての工作）で、何を作ろうかなあ、どんな材料を使おうかなあ、など少しずつイメージをふくらましながら作っていきます。

できた子から、4種類の工作作りの場所へ移動します。＜やじろべえ、紙ごま、変身ボックス、かざぐるま＞の中から選んで順次チャレンジです。

そして、「見て！見て！私の作ったやじろべえ！！」
「おっちゃん！やじろべえ 鼻の上に乗るよ。細い枝の先で回したらおもしろいよ」「見て！見て！私の作った変身ボックス！！」「ひもを引くと変身するでしょう」等々作った工作をつかって遊ぶ。そんな楽しさを見つけた、どんぐり工作でした。

どんぐり
工作

◇図書館行事 子どもの本に関するワークショップ

科学実験「ふしぎないろ水」 11月25日(土) 子ども17名 (他29名)

講師の塚本さんよりムラサキキャベツをしぼった液の話があり、3つのワイングラスに入った水に、この液を入れると、違う色になりびっくり。今日のテーマに引きこまれました。

ムラサキキャベツをしぼった液の入った10の容器に、レモンや石けん水など10種類の液を入れていくと、赤紫や青紫、黄色に変わっていき思わず「きれい！」。色で3つのグループに別れ、酸っぱい酸性、ぬるぬるするアルカリ性、変化のない中性を身近な例を挙げながら説明がありました。



うまく切れるかな！

最後に、焼きそばをムラサキキャベツと炒めると黄色いそばが緑色になっていく不思議さにまたびっくり。

色水の変身の次に生きものが変身する「変身ボックス」を作りました。ひもを引っ張るとオタマジャクシがカエル（他にニワトリやチョウ）に変身。うまく変身させて大喜びでした。



レモンをしぼると

◇成美小校区親子教室 自然物で遊ぼう 12月3日(日)

参加者子ども10名 大人7名 協力者2名

この秋地域では色々も行事のある中、12月3日成美小運動場では地域の餅つき大会が行われていました。そして教室では、今年度第7回親子教室が開かれていました。

子ども達は松かさのクリスマスツリーづくりに頑張りました。大きな松かさ次第々と飾り付けをしていきます。大人はクズのつるリースづくりです。用意された木の葉を中心に飾り付けをしました。グルーガンでの接着にはじめは戸惑いもありましたが、皆さん見事な美しいリースができました。それぞれの宝物を手にとり教室を後にしました。



松かさリース作り

◇出前授業(小学校1・2年生 生活科) 10月～12月

市立小学校(南小、宇谷小、成美小、楠根小、木田小、北小、桜小、東小、和光小)と香里ヌヴェール学院の10校に出かけ、26クラス729名の子どもたちから元気ももらいました。



こんなところでも!

クラスごとに分かれて、紅葉や木の実、どんぐりなど秋の話をした後、どんぐりペンダント・どんぐりコマとやじろべえ・トトロの置物を作りました。どんぐりコマは休み時間と一緒に楽しく遊びました。やじろべえでは、うまくバランスが取れると大喜びで、鼻の上や、つま先に乗せたり、楽しんでいました。トトロの置物では、何をどこにつけようかと考え自分なりの物ができ、ほめられるとうれしそうな子どもたちでした。最後に子どもたちから「トトロが楽しかった」「やじろべえがうまくできてよかった」「考えて作るのが楽しかった」等の感想があり、「ありがとう」と荷物を運んでくれたりしました。



こままわし

みんなでつくる自然資料室だより

自然体験学習室にスタッフの方などから、例年通り木の実・葉、そしてどんぐりなど自然物が集まってきました。

◇ねやがわ自然塾(第6期)

○第6回講座 9月29日(金) 「昆虫のふしぎ」 10:00～15:00



バッタの耳はここですよ

～虫たちのふしぎな生活と役割～

- ・童謡「虫の声」に出てくる虫の実際の鳴き声を聞く。
- ・映像を見ながら、「バッタとキリギリスの違いは?」「カメムシの仲間たち」「身近な虫の見分け方」等の話。
- ・虫の役割として、送粉者・捕食者・分解者についての話。
- ・午後は、シュロを使ったキリギリス作り。

○第7回講座 10月27日(金) 「身近な樹木②」 10:00～15:00

場所:寝屋川公園

- ・袋に入っている10種類のどんぐりの特徴をみて名前に当てはめる。その後で、映像を使って解説。
- ・木の実・草の実のふしぎ(実を切った後の形を観る。)
- ・木の葉(約20種類)を使ってアート作品作り。
- ・午後から、公園内の植物観察。



どんぐりの分類

○第8回講座 11月17日(金) 「水生生物」 10:00～12:00

場所:生物多様性センター



もんどりの説明

- ・生物多様性センターの概要と生物多様性についての話。
- ・施設内の池へもんどりを入れる。
- ・施設内の動植物の観察ともんどりで採れた水生生物の話。

◇子ども自然シリーズ講座

⑨摂南大プログラム「ハーバリウム作り」 9月17日(土) 子ども19名(他29名)

入れるの
難しいな

摂南大の大学生6名が、自分たちで考え材料や資料も用意をするという独自の内容です。初めに標本の話があり、ハーバリウムも元々は標本でしたが、今ではこのようにインテリアとして利用されていると説明があり、ハーバリウムを作ることになります。用意されたビンに、砂、貝、ビーズなどをいれます。そこに、長いピンセットでドライフラワーを入れていきます。色や配置を考えながら入れていきました。最後に、オイルをこぼさないように慎重に入れました。ふたを閉め、リボンで飾って完成です。自分のハーバリウムができ満足気でした。



ミノムシできた

次に、ミノムシの話聞いた後、毛糸の軸に色紙をちぎりながら張り付けていき、ミノムシ作りをしました。最後に目を付け、板にドングリなどの木の実などを付けて完成です。かわいいミノムシができました。

⑩リース作り 12月9日(土) 子ども18名(他20名)

3歳の幼児から小学6年生の子どもたちが参加しました。淀川で取ってきたクズの実物を見た子どもたちは、長いツルを見て驚いていました。その後、リースの由来の話と出先で拾ってきた木の実や葉、特にナンテン、マンリョウ、ピラカンサ、ヒイラギなど注意して扱って欲しいもの話がありました。色のついた木の実と紙や布などで作られた飾り付けも並べられています。グルーガン等の道具の使い方の注意を聞いて材料を付けていきました。材料を選ぶのに考え、付ける場所も考えてうれしそうにグルーガンで取り付けていきました。「付けすぎたけど、きれいにできて良かった」「グルーガンで付けるのが大変だったけど、お兄さんに手伝ってもらってうれしかった」などの感想がありました。



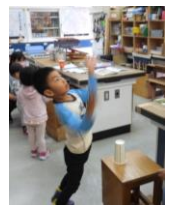
ここに、付けようかな

☆幼児と保護者の自然教室 10月14日(土) 親子3組子ども4名(他8名)



目かわいくかけたね

小さな子どもたちに、もっと自然体験学習室を利用してもらおうと、今年度から始まった講座の初回です。トコトコウさぎを見た後、親子で作ります。お母さんに手伝ってもらいながら耳を切って紙コップに貼りつけます。次に、目などを描き入れ、ゴムをひっかける所に2か所切り込みを入れます。単2の乾電池に輪ゴムをセロテープで止め、車輪を作り、紙コップに取り付け完成です。紙コップを後ろに引いて手を離すとトコトコ動く大喜びでした。



飛んだ!!

次に、紙コップのロケットを作りました。台の紙コップに飛ばしたい紙コップを重ね手を離すと上へ飛び上がります。かぶせる紙コップに好きな絵を描いたり、カエルを切り抜いて貼ったりしました。コップの口に4か所の切り込みを入れゴムをかけるとでき上り。土台のコップにかぶせて手を離すと大きく飛び上がりびっくりする子も。ロケットやカエルを飛ばせて楽しみました。

できることは頑張り、できないところはお母さんに手伝ってもらって作っていました。

◇大人自然工作シリーズ講座

②木のブローチ(パンダ) 10月5日(木)

参加者 29名

キャンセル待ちもあり、すごく人気のシリーズです。

およそ5cm四方、厚さ1.5cmぐらい、スタッフがあらかじめ切っておいたパンダの形のバルサ材にカッターナイフで形作っていきます。頭の周りやお腹に丸みを持たせるのに四苦八苦。少しずつ慎重に削っていきます。講師の森本さんや周りのスタッフの助言で何とか形を作りました。後は、ていねいに紙やすりで磨き上げるだけです。まわりの方々とおしゃべりを楽しみながらの姿も見かけました。全身を白く塗った後、目と手足・耳を黒く塗ると出来上がりです。どこから見ても、パンダにしか見えません。自分の作品に満足されていました。「はじめに思っていたより、難しかった」の感想がありました。



削るの難しい!



完成まじか

③竹工作(干支づくり:辰)

11月22日(水) 参加者 37名

テーブルに太さの違う竹とノコギリが用意されています。多くの女性に交じり3名の男性が参加されました。のこぎりが初めての方も数名おられました。はじめに、竹をのこぎりで頭・首・胴に切り分けます。そして、剪定ばさみで形を整えたり、紙やすりで磨いていきます。顔の部分に角とひげを付ける小さい穴は、スタッフが電気ドリルで開けてくれます。



うまく切れるかな? うまく切れるかな? 後は、グルーガンで見本を見ながら組み立てていきます。首の長い龍や胴の太い龍、首をかしげた龍など個性豊かな龍が出来上がっていききました。最後は、雲の上から首をだし胴体が見え隠れするようにワタを周りに敷きつけて、勇ましい龍の出来上がりです。「玄関でも置こうかな」と独り言。

④リース作り

12月11日(月) 参加者 34名

エプロンを持参する女性の方も数名おられ、昨年も参加されていたようです。はじめに、リースとクズについての話と注意して欲しい事の話がありました。その後、各自で材料を集めてクズの輪に取り付けです。少し重そうなものには、針金やひもで補強した後グルーガンで固定して



どこに付ける?

いました。木の実に色を付けたものや折り紙等で作った物を避けて、自然物にこだわって付けておられる方もおられました。子どもの時とは違い、手際よくでき上がっていきます。「無料でこんな楽しいことができて、うれしかった」「2回目ですが、来年もまた参加したい」「昨年作ったのを持ってきて、付け替えようと思っていましたが・・・」など皆さん満足気に帰られました。

参加申込みが多かったので、午後からも同じ人数での講座をしました。

自然はすばらしい シダ植物シリーズ 3.

カニクサ *Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw. カニクサ科

天野 史郎

シダ植物の中でもっとも身近なものはカニクサではないでしょうか。住宅地の石垣や側溝のすき間など、いたるところでツルを伸ばし旺盛に繁殖しています。ぬこうとしても地面にしっかり食いこみ、なかなかぬけません。ツルはとても丈夫なのでカゴなどに編まれて利用されているようです。しかし繁殖力が強いので、どちらかといえば厄介な草というイメージでしょうか。



図 1: 庭木にからみつくカニクサ

ツルシノブという名前もありますが、今ではもっぱらカニクサとよばれています。名前の由来は、子どもたちがツルを使ってカニをつって遊んでいたからと言われています。戦後生まれの筆者は実際には見きしたことがありませんので、ご存じの方は是非教えていただきたいものです。

カニクサはツルを長く伸ばしてフェンスや木にからみつきます。このツル全体が一枚の葉で、生長のよい葉では 2m を超えることがあります。小さな葉のように見えるのは羽片です。そしてツルは茎ではなく中軸です。このように中軸が長く伸びる生長様式はカニクサ科以外にほとんど例がありません。

カニクサは図 4 のように、ツル (中軸) から短い柄 (羽軸) が出て先は休止芽となり一対の羽片がつけます。羽片には栄養葉 (図 2) と孢子葉 (図 3) があり、形が異なります。これを二形性とよびます。孢子葉は葉の先の方につき、その下方に栄養葉がつけます。孢子葉は葉の縁が裏側に巻き込み、孢子のうが 1 つ包まれています。普通は多数ですが、1 つだけというのは他に例をみません。孢子は大きくルーペでも形がわかります。

長らくフサシダ科に属していましたが、最近では細分化されカニクサ科とされています。



図 2: 栄養葉



図 3: 孢子葉

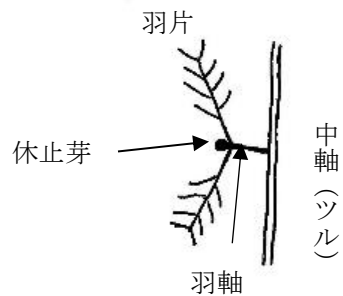


図 4: 模式図

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「火山のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「三葉虫シリーズ」をお届けしています。

三葉虫シリーズ3

「三葉虫の生活」

西村 寿雄

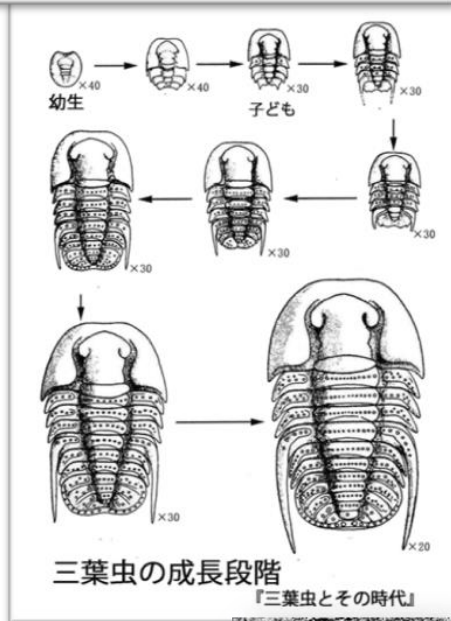
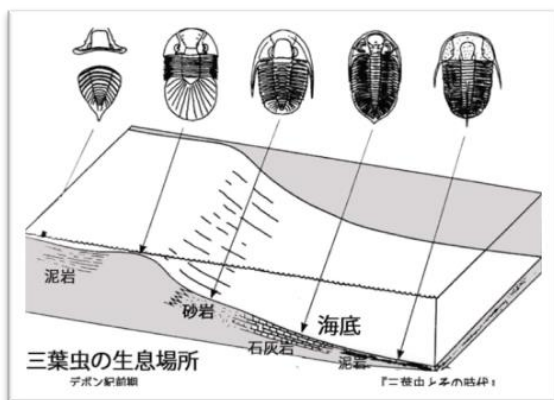
前回は三葉虫のいろいろな形を紹介しました。それでは三葉虫はどんな生活をしていたのでしょうか。数億年前です。

三葉虫の化石は、海底でできた泥岩や石灰岩から多く出ます。ということは、三葉虫はかなり深い海の底に暮らしていたことになります。深い海の底にいる微生物などを食べていたのでしょうか。

特に体の大きい化石は石灰岩層から多く出るそうです。カルシウムを多く取り入れていたことになります。それにはわけがあるのです。

三葉虫は、昆虫などと同じように外骨格の生き物です。ですから大きくなるには脱皮をくりかえします。種類によっては30回も脱皮して大きくなったとのこと。この図の例でも9回も脱皮して一人前になっています。それだけ脱皮して大きくなるには〈外骨格〉にたくさんのカルシウムがいったことでしょう。海水中のカルシウムでは足りなくて石灰岩からも取っていたのではないのでしょうか。三葉虫化石が石灰岩層からたくさん出てくる理由がわかった気がします。

そういえば三葉虫の眼は複眼で、炭酸カルシウムの結晶が集まったレンズで1000個以上の眼を持っていたそうです。数億年も前からこんなハイテクレンズをもっていたなんて信じられません。また、歩くときはかなり速く泥中をはい回っていたようです。こんな足跡^{せいこん}も生痕化石として残っています。5億年から3億年も前の化石からいろんなことがわかってくるものです。次は三葉虫の進化のようすを見ていきましょう。



私の自然観察

身近な昆虫 43

—キンウワバの仲間—

高本 憲二

昆虫の中にはどうしてこんな形になったのかよく分からないものが多い。先日、実家の軒先に左下の写真の蛾がとまっていた。おそらく虫に食われた枯葉に擬態しているのだろうが、ここまでしなくてもよさそうなものだ。調べてみるとこの蛾はヤガ科キンウワバ亜科に属する**キクキンウワバ**という名前らしい。キクキンウワバの幼虫は、ゴボウ、イラクサ、ニンジン、キクなどの葉を食べる。この仲間は前翅に金色または銀色の光沢をもつ斑紋があるためこの名前が付いたという。日本には約50種いるそうだ。

そこで今まで撮っていた写真を調べてみたらほかに4種類が見つかった。



右上は**タマナギンウワバ**で名前のおり前翅に銀色の斑紋がある。この幼虫はアブラナ科の害虫として嫌われています。



左は**ギンボシキンウワバ**というやこしい名前の持ち主。

中央は**ウリキンウワバ**で瓢箪、ヘチマ、カボチャなどウリ科の害虫。

右は**エゾギクキンウワバ**でエゾギク、アレチノギク、キンセンカの害虫。

これらのキンウワバの仲間は特定の休眠期を持たず晩夏から秋にかけて発生し農産物に被害をもたらします。

これら害虫と呼ばれる虫たちも、それぞれが食べる植物は少しずつ違ってうまく棲み分けしているように見えます。そして、よくみると繊細で美しい模様を持っていますね。2～3cmほどの小さな蛾ですが見かけたらルーペで翅の模様をよく観察してみましょう。

きっと驚くような世界が広がることでしょう。

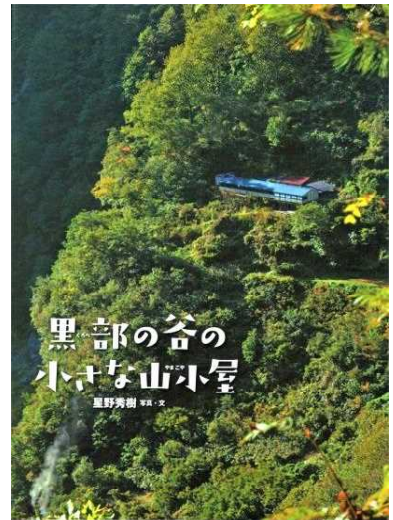
図書紹介

～こんな本が出たよ～

『黒部の谷の小さな山小屋』(大人向き)

星野秀樹/写真・文 アリス館

観光地で有名な黒部ダムから、黒部峡谷を歩いて北上すると小さな山小屋「阿素原温泉小屋」にたどり着く。ここが「黒部の谷の小さな山小屋」である。1949年にできたという。黒部の山奥は冬になると深い雪に閉ざされる。ふつうの山小屋ではその雪につぶされる可能性がある。そこで考えられたのは、毎年秋に小屋をこわして次の夏が来る前にまた建てるという。よくもこんな発想にたどり着いたものだと感心する。また、登山道も雪の重みで崩れることもしばしば、それを補修している人もいる。この本ではこんな過酷な奥深い森のようすが美しい写真で紹介されている。あわせて山の人の仕事ぶりが美しい写真で堪能できる。



黒部峡谷に入るにはいくつかのルートがある。一つは関電トンネルを通るトロッコ列車がある。その写真がまず飛び込んでくる。緑濃い森の中にトロッコが行く。列車を降りるといよいよ険しい山道だ。トンネルを越えて山道を進むと、森の中に小さな山小屋が見えてくる。青い屋根のプレハブ風だ。このプレハブに意味がある。組み立て、取り壊しが何度もできるからだ。プレハブでも土台さえしっかりしておれば鉄骨にかすがいをかませ壁板や窓枠を入れるとかなりの強度は保たれる。6月、いよいよ組み立てが始まる。ページをくると組み立てのようすが細かく紹介されている。トンネルにしまっていた機材を引っ張り出して、次々と7,8人の手によって手際よく組み立てられていく。次ページでは壁板や窓枠が次々と鉄骨柱に入れられていく。3日間かかってやっと完成だ。やがて夏、8月。深い峡谷の夏のようなすが写し出される。ほっとひと息つく間もなく、山男たちは山道の補修にはげむ。おかげで夏にはたくさんの登山者たちの賑わいがある。やがて秋が来る。秋の溪谷も美しい。11月には山小屋の取り壊しが始まる。

黒部の峡谷美を十分に堪能させてくれる本である。

2023年5月 1,600円 <西村 寿雄>

お知らせ

展示会にご参加ください

「2023年度 寝屋川市自然を学ぶ会」展示会

日程 : 2024年1月11日(木)～16日(火)

会場 : アルカスホール 1階ギャラリー

内容 : 活動の記録、私の自然観察、他団体の紹介など

新会員紹介

会員数161名

(12月20日現在)

山本 治

(敬称略)

行事予定



コハクチョウ 水鳥公園 11/8

□定例観察会⑦

「野鳥の観察」

～打上川治水緑地とその周辺～

◇日時：2024年1月21日(日)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：打上川治水緑地 西北口

午前9時30分集合

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：この行事は、寝屋川市環境総務課と共催で実施します。本会会員は申込不要です。集合場所において下さい。

*下見：1月9日(火)日程は当日と同じ

□みんなの掲示板⑥

「淀川の野鳥」

～淀川河川公園・枚方地区～

◇日時：2024年2月12日(月・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：淀川資料館裏河川敷駐車場

京阪枚方市駅から徒歩15分

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：本多 政雄さん

展示会「私の自然観察」

◇日程：2024年1月11日(木)～16日(火)

◇会場：アルカスホール 1階ギャラリー

◇展示内容

①本会の今年1年間の活動記録

②会員のみなさんの「私の自然観察」

③関係機関・団体の活動紹介ほか

(参加者の交流コーナーも予定しています。)

◇展示作品の募集

身近な生活や旅行等で撮られた「自然」に関わる写真などをお寄せください。内容・形式については自由です。

*展示作品の受付等、詳しくは別紙連絡資料をご覧ください。

□野外活動センターの自然観察と環境整備④

◇日時：2024年2月6日(火)10:00～14:00

◇持ち物：帽子、雨具、水筒など、軽装で

◇内容：センター内の自然観察と環境整備

◇昼食：お楽しみ昼食

◇参加申込：1月31日(水)までに

千田(090-4036-0719) 東森(090-5645-1531)へ

□定例自然観察会⑧

春の野草・樹木 「私市植物園」

◇日時：2024年3月20日(水・祝)

9:30～12:00 雨天中止(午後は自由見学)

◇集合：私市植物園 9時30分

◇持ち物：筆記用具、水筒、(弁当)

◇入園料 350円

(中学生以下無料・府内在住65歳以上150円)

◇駐車料 500円



ヒメマツバボタン 点野地域 9/23

編集後記

暖冬かと思ったら寒さの厳しい日が続きますが、会員の皆さんはお元気にお過ごしのことと察します。この秋の観察会、参加・協力活動など沢山の活動で会員の皆さんのご協力をいただきました。木の実をさがしたり、虫を追ったりと自然に触れる子ども達の活動も多くなりました。会報95号を16ページ立てでお届けします。今後ともよろしくお願ひします。